

平成27年度 第2回花見川区支え合いのまち推進協議会議事要旨

日 時 平成27年11月13日(金) 午後2時～午後4時10分
場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室
出席委員数 19名
欠席委員数 7名
オブザーバー 1名
事務局 10名

【1】次第

- 1 開会
- 2 議題 (1) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
(2) 重点取組項目(地区部会エリア別)について
(3) 地域包括ケアシステムについて
(4) その他
- 3 閉会

【2】議事要旨

委員定数26名のうち、7名欠席を確認し開会した。

議題(1) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について

事務局より、資料1をもとに新たに追加された項目を報告。(P14、⑱-こてはし台地区部会エリア、「見守り・声掛け事業」災害時安否確認を追加。)また、資料2により、引き続き情報提供を求めた。

議題(2) 重点取組項目(地区部会エリア別)について

各地区部会長等より、資料3をもとに重点取組項目の取組状況について説明があった。
※質疑については、主に説明事項の確認であったため、省略。

議題(3) 地域包括ケアシステムについて

地域包括ケア推進課より、資料4及び追加配付の認知症ケアパス、生活支援コーディネーターに関する資料をもとに、これらについて説明があった。

<質疑応答>

委員：生活支援コーディネーターは、各区1団体に委託して、各区に1人が配置されるという事か。

【地域包括ケア推進課】：その通り。今年の10月に各区に1人配置したところだが、来年の4月1日には各区2名体制になる。

さらに、あんしんケアセンターを30カ所に増設した後、平成30年度には、日常生活圏域に相当する同センターの活動圏域ごとに、生活支援コーディネーターを1名ずつ配置しようと計画している。

委員：千葉市、あんしんケアセンター、生活支援コーディネーターの3者は、3層のヒエラルキーのような関係という事か。

【地域包括ケア推進課】：あんしんケアセンターと生活支援コーディネーターは、千葉市から委託を受けた対等な立場にある。協力して活動してもらいたいと考えている。

委員：平成24年度にあんしんケアセンターが増設された際には、以前から事業を受託していた法人が増設分を担うことになったと思う。今回はこれまでと同じ法人ではなく、様々な法人に委託してもらいたい。

また、例えば船橋市の場合、「委託型」のセンターと「直営型」のセンターが混在しており、直営型が成年後見人の市長申立て業務を担っている。

一方、千葉市の場合は全てにあんしんケアセンターが委託型で、市長申立ての権限が無いとのことであった。ぜひ、直営型を設けて、そこが全センターを統括するような形で取り組んでももらいたい。

【地域包括ケア推進課】：まず、法人の選定については、既存のセンターを含めて評価した上、公募で新たな6カ所を選定することになる。平成24年度も同様に企画提案・プレゼンテーションを経て選考した。その結果、落選した団体もあったが、決して既存の団体（受託者）を優先したわけではない。

次に、成年後見人の市長申立て業務については、千葉市の場合、各保健福祉センターで担っているので保健福祉センターに相談してもらいたい。

そして、運営形態については、千葉市の場合は全てが「委託型」であるが、これは、社会福祉法人や医療法人など日頃から地域で活動している団体に委託することで、効率的・効果的な運営を図る狙いがある。

また、他市ではセンターの運営を株式会社に委託している事例があるなど、様々な状況を踏まえて公正中立な運営が出来るよう検討していきたい。

委員：私たちの地域では、人口の半分近くが65歳以上であり、千葉市全体でも半分近くの地域で高齢化率が30%を超えている。したがって、この問題への取り組みは早急に進めるべきだと考えている。

生活支援コーディネーターは、私たちが相談できる、一緒に活動できるという点で非常に喜ばしい。現在、あんしんケアセンターにいろいろ協力いただいているが、同じような立場と理解して良いのか。

【地域包括ケア推進課】：まず、待ったなしであるという意見については、その通りだと認識している。地域包括ケアシステムは、10年後に組み立てられれば良いのではなく、出来ることからすぐにやっけて行こうと取り組んでいる。ただ、地域に協力してもらおう部分については、拙速に事を進めることがないように分けて考えている。さらに、切れ目なく10年後を目指して取り組んでいくため、10年間の計画も立てているところである。

次に、生活支援コーディネーターの役割だが、まずは、地域の様々な団体がどのような活動を行っているのか、その状況を把握させてもらいたいと考えている。これは、現状で社協地区部会や自治会、NPO等の活動を具体的に、一手に把握している部署が市役所内に少ないため、生活支援コーディネーターの任務の一つとした。ぜひ、ご理解いただいて、地域の会合などに声をかけてもらえると大変ありがたい。

委員：分かりました。例えば、本協議会には出て来てもらえるのか。

【地域包括ケア推進課】：認めてもらえるのであれば、ぜひ、本協議会に加えてもらいたい。

委員：生活支援コーディネーターは、地域包括ケア推進課に代わって地域を回り、情報を集めるという事か。情報の把握が目的ならば、基本的に地域包括ケア推進課が自ら出向いて現場を見るという事をして欲しい。

地域包括ケア推進課：そのように務めて行きたい。

なかなか、全ての場に出向くことは難しいが、夜間・土日に開催する会議などにも積極的に出向くようにしているので、日時などを知らせてもらえるとありがたい。

委員：生活支援コーディネーターの委託先について、来年4月から2名になる際には、同じ団体からもう1名出てくるという事か。

地域包括ケア推進課：その通り。受託団体の選定にあたっては「人材育成」という点も重視した経緯があり、4月には同じ団体からもう1名設置することになる。

委員：市はどの程度の委託料を支出しているのか。

地域包括ケア推進課：人件費分として算出した。一方、事務費等を加算することが出来なかったため、受託団体の事務所内に事務スペースを設けてもらって活動している。

委員：そこで、花見川区の場合、受託者が「株式会社」である。利益の追求を目指す株式会社では、いろいろ問題が出てくるのではないか。

地域包括ケア推進課：当然の心配だと思うが、民間企業のノウハウや社会貢献の意識に期待しており、むしろ他の事業所と競い合ってもらいたいと考えている。きちんと監督していくのでご理解いただきたい。

委員：地域包括ケアシステムの構築に向けて、各団体にどのような取り組みが求められるのかという問題意識で説明を聞いていたが、具体的ところが良くわからなかった。今後、地域で話し合い等を行う際には来てもらいたい。

地域包括ケア推進課：ぜひ、声をかけてもらいたい。

委員長：生活支援コーディネーターとあんしんケアセンター、これらの役割分担がはっきりしない。我々は、これまで社協やあんしんケアセンターとともに活動してきた。この上さらに、生活支援コーディネーターにあれこれと聞かれたのでは大変な労力がかかる。

先の資料にもあったように、花見川区の北部には高齢化率が30%を超える地域、中には50%を超える地域があり、そのような地域では日々の活動に手いっぱい、新たな団体が訪ねてきても対応できない。こうした実情をよく理解してもらいたい。

地域包括ケア推進課：まず、あんしんケアセンターとの差別化という点では、あんしんケアセンターは専門相談を受けることが第一だと考えている。その上で、地域支援の面では生活支援コーディネーターと共に活動していくことになる。

そして、情報の把握については、これまで情報が無かったようなところにもどんどん訪ねて行きたいと思っているが、あんしんケアセンターがすでに把握している情報は生活支援コーディネーターがそれを共有する形を取りたい。負担になることは重々承知しているが、できるだけ地域に負担がかからないよう工夫していくので、ご理解いただきたい。

委員長：在宅医療や在宅介護の話があつたが、在宅介護とは具体的にはどういうことか。家族が面倒を見るという事か？

地域包括ケア推進課：先ほどは在宅看護の面が大きかったが、医療と介護の連携を進めているところである。

また、在宅介護についても家族で面倒を見るという事ではなく、国では介護保険のサービスを前提にした上で、多様な主体によるサービスを想定している。例えば、介護保険サービスとしてヘルパーを利用しても有償ボランティアなどで事が足りるケースもあるのではないかと、といったことが考えられる。

委員長：老人施設が満員で入所できないから、在宅で施設と同じようなサービスを受けられる、家族の負担は増えないと解釈して良いのか。

地域包括ケア推進課：現実として、家族の支援を受けられない方が増えており、そこをどのように地域包括ケアシステムで救っていくのが課題である。

家族に負担をかけない、とは明言できないが、出来るだけ軽くなるように取り組んでいる。

委員：あんしんケアセンターと生活支援コーディネーターの関係について、あんしんケアセンターはどちらかというと介護保険に関する部分を担当し、生活支援コーディネーターは「互助」に関連するサービスのまとめ役、育てていく役割だろうと理解した。

その点では、地区部会や自治会と近い立場にあると思うので、地区部会等がやろうとしていることを生活支援コーディネーターにつなげて、行政のサポートなどを得られれば、両者にとってメリットがあるのではないかと。

地域包括ケア推進課：ありがとうございます。

(議事終了)

事務局より、次回は2月の開催であることが伝えられ、原田委員長が閉会挨拶し、午後4時10分、花見川区支え合いのまち推進協議会を閉会した。